

郷土を知り、郷土を愛する

## 志木市 歴史をんぼ

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

## 第3回 西原大塚遺跡

▶西原大塚遺跡鳥瞰写真

▶犬と推測される動物  
形土製品

幸町2丁目、3丁目の一帯に広がる西原大塚遺跡。現在の風景は、健康増進センター、西原保育園、公園、住宅、畑ですが、かつてその下には旧石器時代から江戸時代までの遺物が眠っていました。

広さは16万4,960㎡、東京ドーム3.5個に近い広さです。特に注目すべきは縄文時代の土偶、人面把手付土器じんめんたつてつぎどきです。人面把手付土器は、国立科学博物館に出展されたこともある貴重な物です。弥生時代では、鳥・犬と思われる土製品ほうけい。犬であれば日本で唯一の資料です。住居跡600軒以上、方形周溝墓しゅうこうぼという四角で周りに溝がある墓も40基確認されているので、大規模な集落があったと考えられます。室町時代の物としては、中国製の磁器(皿)が出土しました。

これらの遺物は、現在、埋蔵文化財保管センターで公開されていますので、そちらまで足をのばしてみたいはいかがでしょうか。

**埋蔵文化財保管センター**

住所／柏町1-20-19

開館時間／平日9時～17時  
(入館は16時まで)

☎048(473)8157

※団体利用の場合は事前にご連絡ください。



志木市長 香川 武文

## 持続可能な財政運営のために…

いまだ終息が見えない新型コロナウイルス感染症の影響により、今後税収などの落ち込みによる財源不足が懸念されることから、志木市でも令和2年12月議会において、職員の期末勤勉手当と特別職、議員の期末手当を減額する議案も提出しているところでもあります。こうした状況を前に、皆さまの不安も大きいことと思います。

時に、新市庁舎建設による財政負担に対し、ご心配の声をいただくこともあります。この点に関しては十分な議論を重ねてきたところであり、建設に係る財源については、公共施設の更新に備え、これまで何年にもわたり積み立ててきた「公共施設安心安全化基金」の活用に加え、地方債の活用、つまりは資金の借り入れをすることで、財政を圧迫することのないよう計画を立てています。

なお、この地方債については、毎年無理のない返済をするとともに、返済金について、国の補助を受けることで、最小限の支出となるよう入念に財政シミュレーションを行っていますので、新市庁舎建設により「財政非常事態」に陥るといったことはありません。

しかしながら、今後も、市庁舎以外の老朽化が進行している公共施設の再整備や保育料などの無償化をはじめとする保育関係経費、超高齢社会の進展に伴う医療・介護関係経費などに係る予算の増加が想定されますので、より一層慎重な財政運営をしていかなければならないという気概を胸に、目下、令和3年度の予算編成に取り組んでいます。

予算編成を進めるに当たっては、本市の職員に対して、「志木市の将来への責任を負っていることを改めて認識し、危機意識と緊張感を持つこと」、「『新しい生活様式』に対応した『新しい』志木市を創っていくという視点を持つこと」、「創造に向かう活力、安心を支える底力、状況を打開する想像力などを最大限に発揮し、前例にとらわれることなく、多角的な視点を持つこと」を伝え、全職員が一丸となり、知恵を絞るよう発破をかけています。

2020年も残すところ1か月となりました。何といても今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの笑顔や元気が奪われてしまいました。来年こそは、コロナ禍の終息を願い、1日でも早く元気で活気あふれる志木市の姿を取り戻したいと思っています。

改めて、今年1年の志木市のまちづくりへのご支援、ご協力に感謝申し上げます。明るく年々志木市にとって、皆さまにとってよい年となるよう、ともに頑張っていきたいと思います。